

日本人英語学習者のライティングにおける **because** 節の誤用について*

井上 健人¹

要 旨

理由を表す **because** 節の使用に関して、日本人英語学習者には特有の誤用が見られる。主に中学生や高校生を対象にした先行研究では、①文頭位置で **because** 節が用いられること、②主節を伴わず単独の文で **because** 節が用いられること (**because** 節単体文)、などの誤用が特徴的に観察されている。しかしながら、このような誤用については、**because** 節が用いられた文脈を分析した先行研究は筆者の知る限りまだない。本研究では大学1年生の英語ライティングに見られる **because** 節単体文とその直前の文の意味関係を分析し、**because** 節単体文には(i)直前の文を主節命題としている場合、(ii)表層構造として現れない遂行動詞を修飾している場合に大別され、**because** 節単体文は意味的には主節を従えない単体節ではないことを論証する。

1. はじめに

平成30年に改訂された高等学校学習指導要領（外国語・英語）では、言語コミュニケーション能力の養成だけではなく、社会的な話題や出来事に対して思考し、判断し、表現する能力の向上も目標として掲げられている。「書くこと」に関しては、意見や考えを理由も用いて、適切で論理的な構成で表現することが新

* 本稿を執筆するにあたり、栗原和生教授から研究の進め方など様々な観点から大変有益な御示唆・御教授を賜りました。ここに記して、感謝申し上げます。

¹ 神田外語大学外国語学部英米語学科語学専任講師。

たな狙いとして明記された。論理的に書く力を育むために、授業内指導だけでなく、教室外での効果的な誤り訂正も必要になってきている。ライティングの学習支援の第一歩として、学習者の誤りの実態を把握することは有意義なことである。

論理的な文章を書く場合、主従の接続詞を適切に使うことが出来なければならない。特に、理由を表す接続詞 **because** 節は英語学習早期の段階から導入され、学習教材にも頻繁に用いられ、学習者自身も多用する接続詞である。にもかかわらず、英語学習が進んだ段階でさえも(2)のような誤った構造での **because** 節の使用が数多く報告されている（藤本(2010)、小林(2009)、佐々木(2021)、立川(2020)、Murakoshi(2012)）。

- (1) John was angry because Tom came late.
- (2) John was angry. *Because Tom came late.

従属接続詞である **because** は(1)のように主節を伴わなければならないが、日本人学習者は(2)のように主節を伴わず、**because** 節を単独で用いる傾向があるとされている。こうした指摘は主に日本人学習者コーパスと英語母語話者コーパスを比較し、統計学的に分析したものである。また、先行研究の多くは筆者の知る限り、**because** 節が主節を伴わず単体文として用いられている統語構造に注目しているが、**because** 節単体文が直前の文とどのような意味関係にあるのかを詳しく検討したものない。

本稿では日本人英語学習者のライティングに見られる誤用データを用いて、**because** 節単体文とその直前の文がどのような意味関係にあるのか、すなわち直前の文が意味上 **because** 節単体文の主節命題として機能しているのかを考察する²。

² 形式上主節が欠落しているように見える **because** 節の誤用は先行研究では他にも「断片文」（小林(2009)）や「従属節単体文」（立川(2020)）などと呼称されているが、本稿では「**because** 節単体文」とする。

2. 先行研究

Fujiwara (2003) は、理由・結果を表す接続詞と前置詞の使用頻度を日本人学習者と英語母語話者の間で比較し、日本人英語学習者は *because* を過度に、*as* を過少に使用する傾向があると報告している。しかしながら、*because* 節が文章のどの位置で、あるいはどのような構造で使われているかは検討されていない。

他方、小林 (2009) は JEFLL Corpus (日本人中学生・高校生の英作文コーパス) と ICLE-JP (日本人大学生の英作文コーパス) を用いて *because* 節の生起する統語的位置について調査し、次のように報告している。中学生、高校生、大学生の英作文ではそれぞれ 78%, 56%, 42% の割合で *because* 節が文頭位置に生起していることが明らかになった。また、大学生の *because* の使用例のうち、83% と非常に高い割合が *because* 節単体文であったと報告している。さらに小林によれば、*because* 節単体文は以下の 3 つタイプに分類される。

(3) a. [タイプ 1]: 主節が脱落した文 (e.g., *Because it is not late. (小林 2009: 15))

b. [タイプ 2]: 従属節が等位接続詞を含む文 (e.g., *Because I like reading, and reading is very good thing. (小林 2009: 15))

c. [タイプ 3]: 主節を持たない他の従属節が入っている文 (e.g., *Because if we learn English we could expand our own world. (小林 2009: 15))

Because 節単体文の 80% 以上が (3a) の主節が脱落した文であり、学年が上がると若干の減少は見られるが、大学生でも 80% という高い使用頻度であった。同様に、(3c) のような従属節が「入れ子」になっている文の使用頻度は減少傾向にあるが、(3b) の誤りはその使用数に大きな変化は見られず、文と節の区別に関する文法知識が曖昧であることを示唆している。

このような結果に対して、先行研究では主に3つの要因が指摘されている。まず、小林（2009）は「母語干渉」によるものと指摘した。日本語では「S₁. なぜなら、S₂.」のような文が容認されるため、主節を伴う英語のような構造“S₁ because S₂.”は必ずしも必要ではない。したがって、日本人学習者にとって英語のbecause節の用法と日本語の「なぜなら～（だ）からです。」という表現形式との差異化が難しいのではないかと指摘している。

母語干渉の一例として、立川（2020）は読点（カンマ）の生起位置について言及している³。Because節単体文の中に(3)のような特徴的なカンマの使用が見られる。

(4) *Because, the most important thing is my life. (立川(2020: 306))

通常、日本語で接続詞を使う場合は読点を接続詞の直後に置くことができ（「しかし、」「けれども、」「なので、」）、理由を表す場合も「なぜなら、」と慣習的に表現される。しかし、英語では(4)のように従属接続詞の後ろにカンマを置くことはないので、日本語からの負の転移があると立川（2020）は述べる。

さらに、小林（2009）は「話し言葉と書き言葉の混同」の可能性を指摘している。口語では why 疑問文に対して、文末の because 節を残し主節を省略した答え方を用いることができる。したがって、主節を意識的に共起させる必要がなく、「書き言葉」が必要とされるライティング活動においても、その口語体構造が使われている可能性と示した。立川（2020）は、近年の授業指向もこれに拍車をかけているのではないかと示唆した。口頭コミュニケーションが重視されているた

³ 立川（2020）は英語母語話者の BROWN コーパスと LOB コーパスを用いて、日本人中高生の because 節単体文使用傾向について調査した。英語母語話者が because 節を文頭で使用する割合は両コーパスにおいて 9%以下であり、日本人学習者の約 70%という使用頻度とは著しく対照的な数値である。また、日本人学習者の because 節使用例のうち、約 60%という高い割合で because 節単体文が用いられていると報告されている。

め、「書き言葉」が求められる言語活動においても **because** 節単体文を使うことに学習者だけではなく教師側も“違和感”を抱かなくなっているのではないかと指摘している。

3 つ目の要因として挙げられているのは、外国語学習初期に受ける教科書インプットである。立川（2020）によると、中学校検定教科書 6 社で掲載されている **because** 文のうち、たった 2 割が **why** に呼応する **because** 節単体文であった。一方、主節を伴う一般的な用法は 6 割以上であり、正しい形でのインプットのほうが遥かに多かった。にもかかわらず、学年が上がったとしても **because** 節単体文を非常に多く産出しているという事実が、この **because** 節の誤用の深刻さと指導改善の必要性を物語っている。立川は会話表現が中心となる教室指導について、「**Why** 疑問文には **Because** で答える」という 1 対 1 対応での表現に誘導するのではなく、“**This is because ... / It is because ...**”という主節を伴う表現や **because** という形式に囚われずに理由を表現することを意識した指導が必要であると提言している。

最後に、**because** 節単体文に関する先行研究をまとめると以下の通りである。

- (5) a. 日本人学習者は文末ではなく文頭で **because** 節を多用する
- b. 文頭使用の多くが主節を持たない従属節単体文である
- c. この誤用は日本人学習者に特徴的に見られる傾向である
- d. 主な原因として指摘されるのは「母語の負の転移」「書き言葉への意識低下」「教科書インプットの影響」の 3 点である

こうした先行研究の多くは **because** 節単体文を統計的に分析し、統語上での誤りとしている。しかし、**because** 節の出現位置と頻度を量的に見るだけではなく、小林（2009）が指摘するように、学習者が産出した個々の文を意味レベルで分析し、**because** 節単体文がその直前の文とどのような結びつきをしているのかを考

察する必要があるだろう。

3. 研究方法

3. 1 研究目的

先行研究では、中高生の英作文における **because** 節単体文の使用について注目しているものが多く、大学生を対象にしたものが少ない。本研究では、日本人大学 1 年生が書いた英語エッセイを用いて、**because** 節単体文とその直前の文との意味関係、とりわけ(6)に示した点について考察する。

- (6) a. 先行研究にあるような **because** 節単体文は大学 1 年生が書いた英語エッセイでどの程度検出できるか。
 b. **Because** 節単体文はその直前の文とどのような意味関係にあるのか。
 c. **Because** 節単体文にはどのような原因が考えられるか。

3. 2 研究対象・方法

被験者は 2020 年度の英語専攻の日本人大学 1 年生（初級レベル 36 名、中級レベル 34 名）である。入学前に受験した TOEFL - ITP の平均スコアはそれぞれ、初級 450 点、中級 470 点であった。対象となる英語エッセイに関しては、授業課題のエッセイのうち、2021 年 10 月の時点で確認できたものを分析対象とした。

表 1 分析対象となる英語エッセイ数

レベル	被験者数	課題実施回数	提出確認数
初級	36	8	275
中級	34	9	269

表 1 に記載の通り、初級クラスから 275 点、中級クラスから 269 点の英語エッセ

イ提出があり、総計 544 点のエッセイの中から主節を伴う because 節（正用法）と because 節単体文（誤用法）をすべて抜き出し、誤用の現状を調べた。また、because 節単体文はその直前の文も抜き出し、because 節単体文との意味関係を考察した。

4. 結果と考察

4. 1 because の使用頻度と誤用

日本人大学 1 年生が書いた英語エッセイで用いられた正用法の because 節と because 節単体文それぞれの使用回数は表 2 のようになった。なお、because of や疑問詞 why の返答としての because、意味解釈が困難な文（計 8 件）は有効数に含めていない。

表 2 正用法の because 節と because 節単体文の割合

レベル	because 使用数	正用法	because 節単体文
初級	263	215 (81.7%)	43 (16.3 %)
中級	291	236 (81.1%)	53 (18.2%)
全体	554	451 (81.4%)	96 (17.3%)

初級クラスの英語エッセイにおける because の使用頻度は 263 回、そのうち統語構造上主節を伴っている正しいものは 215 回（81.7%）であった。また、中級クラスではエッセイ出題回数は初級クラスに比べて 1 回多いこともあるが、because が使われている 291 回のうち、236 回（81.1%）が正しい形式で使われており、初級クラスと類似した結果であった。because 節単体文は初級レベルで 43 回（16.3%）、中級レベルで 53 回（18.2%）、全体で 96 回（17.3%）使われており、習熟度の違いによる誤用数の大きな差は見られないが、中高と学習を積んできた大学生が書いた英語エッセイにも、先行研究で報告されているような特徴的な誤

用傾向を確認することができた。

さらに、英語エッセイで使用された **because** 節単体文には、小林（2009）が指摘したような 3 つのタイプが確認された（分類に関しては第 2 項先行研究を参照）。以下の表 3 は、その頻度をまとめたものである。

表 3 **because** 節単体文の構造タイプ別頻度

レベル	Because 節単体文	タイプ 1	タイプ 2	タイプ 3
初級	43	31 (72.0%)	6 (14.0%)	6 (14.0%)
中級	53	39 (73.6%)	8 (15.1%)	6 (11.3%)

小林（2009）の調査では、**because** 節単体文のほとんどが(3a)のタイプ 1（単純に主節が欠落した文）であり、学年に関係なく中学生・高校生・大学生に一樣に見られる誤用だと指摘されており、今回のデータでも同様の誤用傾向が確認できた。タイプ 1 の頻度は初級・中級レベルでそれぞれ 31 回（72.0%）、39 回（73.6%）であり、この割合をみると習熟度が比較的高い学習者でも **because** 節の誤用は顕著であることが分かる。他方、(3b)のタイプ 2 と(3c)のタイプ 3 の誤用はその頻度こそ少ないが、中学・高校の英語学習を経た大学生でも同様な誤りをしているという点は注目に値する。

4. 2 **because** 節単体文と意味上の主節

第 4.1 節では、形式上主節を持たない **because** 節単体文がどのくらい英語エッセイで使用され、小林（2009）のどのタイプに分類できるかについて述べた。以下、**because** 節単体文とその直前の文との意味関係を詳しく分析し、**because** 節単体文は異なる 2 種類に大別されることを論じる。次の例は、一見どちらも統語構造上は違いのない **because** 節単体文のように見える。

- (7) I experienced volunteer activities when I was an elementary school student.
*Because a friend of mine asked me to join it.

- (8) If you like to travel, you will love that place. *Because Okinawa has a beautiful sea, rich nature and a great traditional culture.

(7)と(8)はどちらも主節を伴わず、従属節が単独で用いられており、先行研究で指摘されている誤用である。しかしながら、(7)の場合 because 節単体文 (Because a friend of mine...) はその直前の (I experienced volunteer activities...) の直接的な因果関係を表していると捉えることができる。つまり、because 節単体文の直前の文が意味的にはその主節命題を表しており、(9)のような正しい文で書き表すことができる。

- (9) I experienced volunteer activities when I was an elementary school student,
because a friend of mine asked me to join it.

他方、(8)の because 節単体文は(7)のそれとは異なる解釈を持つ。Because 節単体文 (Because Okinawa has a...) が、直前の文 (If you like to travel, you will...) の直接的な理由を示すのではなく、「そう言っている根拠」を表していると捉えることができる。安藤 (2005: 551-555) によれば、表層構造に現れない遂行動詞 (performative verb) を修飾する because 節も主節命題の直接の因果関係を表す because 節も同様に文末に現れるが、形式上異なる構造で生起する。(10)の because 節は動詞句 (not coming) を修飾しているが、(11)の場合、because 節は「彼は授業に出ない。(He is not coming to class.)」と話し手が「言う・思う」根拠を表している。つまり、(12)のように意味的には“I say to you”のような(発言という行為を遂行するという意味で) 遂行動詞が隠れており、because 節はそ

の遂行動詞を修飾している。

- (10) He's not coming to class because *he's sick*.

(彼は病気だから授業に出ない)

- (11) He's not coming to class, because *he just called from San Diego*.

(彼は授業に出ないよ、さっきサンディエゴから電話してきたんだから)

- (12) He's not coming to class. I say to you because he just called from San Diego.

つまり、(8)は(11)と同じような解釈ができるため(13)のように because 節単体文が表層構造には現れていない遂行動詞を修飾していると考えることができる。

- (13) If you like to travel, you will love that place. I say to you because Okinawa has a beautiful sea, rich nature and a great traditional culture.

表 4 の上記 2 種類の because 節単体文の使用頻度をまとめたものである。

表 4 Because 節単体文の種類と使用数頻度

Because 節単体文の種類	初級	中級
直前の文を主節命題とする場合	31 (72.1%)	31 (58.5%)
表層構造には現れない遂行動詞を 主節命題とする場合	12 (27.9%)	22 (41.5%)

先行する文を意味上の主節命題と解釈できる because 節単体文の使用頻度は初級レベル 31 回 (72.1%)、中級レベル 31 回 (58.5%) であった。換言すれば、学習者が誤って使っている because 節単体文のほとんどが直前の文の理由・根拠を述べているのである。さらに、表層構造には現れていない遂行動詞を修飾している

because 節単体文もそれぞれ 12 回 (27.9%)、22 回 (41.5%) であった。Because 節単体文とその直前の文の意味関係を詳しく考察すると、主節命題を伴わず、意味的にも単独で用いられている because 節の誤用は見られないことが明らかになった。

したがって、学習者が使用する because 節単体文は統語上の誤りであり、意味上の誤りではないと考えられる。学習者が使用する because 節単体文は主節を修飾しており、その理由・根拠を論理的に述べることができている。問題となるのは、学習者の because 節の意味理解ではなく、どのような文構造で because 節を使用するのか、つまり「形式」についての知識が脆弱であることに起因するのではないか。また、中高の学習経験を経た大学生が教室内の外国語活動に従事することだけで無意識のうちに欠落した知識が補われ、曖昧な知識が再学習され、統語的にも正しく使えるようになるとは考えにくい。したがって、意味を確認することに加えて、なぜこの文構造が間違っているのかを明示的に指導し、学習者の気づきを促すことが有効であろう。

4. 3 because 節単体文とその原因

以上、英語エッセイに現れる because 節単体文を統語的・意味的観点から分析したが、なぜこのような誤用が生じるのであろうか。先行研究では、「日本語からの負の転移」, 「文体の混同」, 「教科書インプットの影響」の 3 つの要因が挙げられている。

1 つ目の「日本語からの負の転移」に関して、第二言語習得研究では、母語と目標言語の言語体系が異なる場合、母語知識が「転移」や「干渉」と呼ばれる負の影響を及ぼす場合があることが知られている (Larsen-Freeman and Long (1991))。

日英語の理由を表す表現形式を比べてみると、because の訳語「なぜなら」はその後に原因や理由を述べるという点では英語の because 節と同じ働きをする。

しかしながら、日本語では、主節を伴わず、理由節（「なぜなら～（だ）からです。」）だけで文を完結することが許容される。小林（2009）はこのような観点から、（*why* 疑問文への応答文以外では）主節の省略が認められていない英語の *because* 節と日本語の「なぜなら～（だ）からです。」のような表現形式との混同により、日本人英語学習者は *because* 節単体文を過度に産出してしまうのではないかと述べている。また、英語学習者に共通して見られる誤用を取り上げて説明している Turton and Heaton（1996）では、上で述べた *because* 節の誤用事例に関する記載がないため、*because* 節単体文は日本語を母語とする学習者に特有の誤用と考えられる。換言すれば、日本語における理由・根拠の表現が *because* 節単体文の要因となっている可能性があるのではないだろうか。

2 つ目の「文体の混同」の観点から、立川（2020）は会話中心の外国語活動が *because* 節単体文の誤用傾向に影響している可能性があることを指摘している。教室内の口頭による言語活動では、*why* 疑問文の答えとして主節を省略した、つまり *because* 節単体文が多用されるので、*because* 節の誤用に違和感を覚えなくなっている」と推察される。

3 つ目の原因として「教科書インプット」による負の影響を挙げることができる。中学校指定教科書では、*because* 節が主節に後続する規範的な用法が大半を占める。その一方で、主節が省略されていることが明示的に説明されないまま、*why* 疑問文の応答文としての *because* 節単体文もインプットとして与えられている（立川（2020））。学習早期からこのようなインプットに接することで、会話文の形式を過剰に一般化している可能性があるのではないだろうか。結果として、文体への意識が欠落することになり、学習者はライティング活動のような正確さが求められている場面でも主節を省略して *because* 節を使用しているのではないか。

しかしながら、本研究で明らかとなった 2 種類の *because* 節単体文の誤用のうち、表層構造には現れない遂行動詞を修飾する用法については、上記の 3 つの要

因では十分な説明ができないように思われる。その理由は、次の2点である。まず、先行研究では **because** 節が単体で生起することのみが取り上げられ、直前の文とどのような意味関係にあるのかという点が検討されていない。すなわち、**because** 節単体文は、統語上は主節を伴わない逸脱した構造を持つものの、意味的には直前の文が主節命題として機能しているという **because** 節単体文の特徴について考察がなされていない。

また、(14), (15)の例から分かるように、「なぜなら～（だ）からです。」という表現は、直前の文が表す内容の直接的な理由を表す場合にも、また直前の文を述べる話し手の根拠を述べる場合にも自然に用いることができない。

(14) 昨日の授業を欠席しました。*なぜなら風邪を引いたからです。

(15) 山田君だったら図書館にいると思うよ。*なぜならさっき図書館の方へ歩いて行ったからです。

したがって、「なぜなら～（だ）からです。」という表現形式との混同によって **because** 節単体文の誤用が生じるとは考えにくい。

以下、**because** 節単体文の誤用には、「言いさし文」と呼ばれる表現形式が関連している可能性があることを述べる。「言いさし文」とは、「従属節＋接続助詞」で終結した文を指す。例えば、理由を表す接続助詞「カラ」が終助詞的に用いられ、いわば「カラ節単体文」とも呼ぶことのできる文が日本語には豊富にある（白川（2009））。次の例では、接続助詞で終わる「カラ節」は、主節を伴うことなく単体文として現れている。

(16) 井上君だったら会議は欠席だよ。今日は大阪に出張だって言っていたからね。

(17) 一緒に行ってくれない？ 一人で行くのは心細いから。

- (18) ちょっと待ってて。スイカをチャージしてくるから。

興味深いことに、(16)-(18)の「カラ節」の用法は、形式上主節が欠落しており、不完全な統語構造を持っている。「カラ節」と直前の文の意味関係を考えると第4.2節で見た *because* 節単体文の誤用のうち、表層構造に現れない遂行動詞を修飾する用法に酷似していることが分かる。例えば、(16)の「カラ節」は、直前の文の内容を述べる話し手の根拠を示している。このように「カラ節単体文」は日本語では文法的な表現形式として広範に用いられている。他方、英語では(16)-(18)に相当する意味内容を表すには、主節が *because* 節に従える複文に構造化しなければならない。このように、日本語では接続助詞が終助詞的に用いられ、統語構造上では単体文と具現化する場合が多く観察されるのである。

「カラ」以外の接続助詞にも、同様な用法が見られる。

- (19) お待ちいただけますでしょうか。お調べいたしますので。

- (20) A. 明日一緒に昼ご飯食べられる？

B1. 会議がなければ大丈夫だけど。

B2. 会議がなければ大丈夫なのに。

(庵他(2010: 434))

(19)の「ノデ節」は、直前の文の話者の発言の根拠を表している。一方、(20B1), (20B2)では文末の異なる接続助詞によって、直前の文との異なる意味関係が表されている。(20B1)の「ケド節」は、直前の文の仮定条件、すなわち、会議がある可能性、ない可能性のいずれもあり得ることを表している。これに対して、(20B2)の「ノ二節」は英文法でいうところの「仮定法」に相当する意味を表している。つまり、直前の文に対して、会議があるので一緒に昼ご飯は食べられない、と述べているのである。

このように日本語には、様々な接続助詞が主節を伴わず単体文としてごく自然に用いられ、直前の文との複雑な意味関係を表すことができる。これが第 4.2 節で見た日本人学習者に特有の **because** 節単体文の大きな要因と考えることはできないだろうか。

5. まとめ

本稿では日本人英語学習者の英語エッセイデータを用いて **because** 節単体文の誤用について調査し、**because** 節単体文とその直前の文との意味関係を詳しく分析した。その結果、**because** 節単体文には先行研究では指摘されていない 2 種類が存在することが明らかとなった。すなわち、**because** 節単体文は統語構造上の誤りであり、意味的には直前の文を主節命題として解釈できる用法と表層構造には現れない遂行動詞を修飾する用法の 2 種類に分類される。この誤用を引き起こす要因として、日本語の「言いさし文」からの母語干渉が推察される。日本語では接続助詞で文を完結することが文法的に容認されるので、英語においても類似した構造を用いるのではないかと考えられる。

すでに述べたように日本語には「カラ」以外の接続助詞（「ノデ」「ケド」「ノニ」）についても、主節を伴わない終助詞的な用法を持つものがあるが、今後は、これらの接続助詞に対応する **since**, **although**, **if** 節の誤用についても検討していきたい。

また、**because** 節の誤用に対して明示的文法指導を施し、既知の文法知識を再構築することで誤用文は量的にどのように変化をするのかを調査し、指導による再学習の有効性の問題へと考察を広げていきたい。

参考文献

安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』 開拓社, 東京.

藤本和子 (2010) 「原因・理由を表す because 節の位置について学習者への指導をめぐって」 『英語英文学研究』 35(1), 61-78.

Fujiwara, Yasuhiro (2003) “The Use of Reason-Consequence Conjuncts in Japanese Learners' Writing English.” *English Corpus Studies*, 10, 91-104.

庵巧雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2010) 『中級を教える人のため日本語ハンドブック』 スリーエーネットワーク, 東京.

小林雄一郎 (2009) 「日本人英語学習者の英作文における because の誤用分析」 『関東甲信越英語教育学会研究紀要』 23, 11-21.

Larsen-Freeman, Diane, and Michael H. Long. (2014) *An Introduction to Second Language Acquisition Research*. Routledge, London.

Murakoshi, Ryoji (2012) “The development of the use of ‘because-clauses’ by Japanese high school students.” 『コーパスに基づく言語学教育研究報告』 8, 369-376.

佐々木恭子 (2021) 「高校生の英作文に見る because 使用一頻度・文中位置の視点から」 『統計数理研究所共同研究レポート』 444, 139-158.

白川博之 (2009) 『「言いさし文」の研究』 くろしお出版, 東京

立川研一 (2020) 「日本人初級英語学習者の Writing における ‘because’ の使用傾向」 『大分大学教育学部研究紀要』 41(2), 301-312.

Turton, Nigel D., and John Brian Heaton (1996) *Longman Dictionary of Common Errors*. Longman, London.